

## 参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題	余白
著者 / 所属	清野 和彦 / 国土交通委員会調査室
雑誌名 / ISSN	立法と調査 / 0915-1338
編集・発行	参議院事務局企画調整室
通号	471号
刊行日	2024-12-10
頁	202
URL	<a href="https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/ripou_chousa/backnumber/20241210.html">https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/ripou_chousa/backnumber/20241210.html</a>

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください (TEL 03-3581-3111 (内線 75020) / 03-5521-7686 (直通))。

余白																			
																		清野	和彦

いつの頃からか、エレベーターに乗ろうとする自分の前を驚くようなスピードで駆けて行き、私のためにボタンを押してくれる人がいることに気がついた。と言うか、私を半ば押しつけてでもボタンを押すことが至上命題のようにになっているのではないかとさえ思うことがいつの間にか増えていた。

同じように、エレベーターが目的階に着いたとき、降りる順を譲り合う光景が眼前に繰り広げられていることにも気がついた。多くの場合、譲り合うだけにとどまらず、どうやら、職制（らしきもの）や採用年次、実年齢などの「上下」を考慮した上で、「順序よく」降りているようである。しかしながら、そういった「配慮」のため貴重な時間を費やすことによって、かえって周囲に迷惑となっているという重要な事実には気づいていないようだ。

大切な顧客や来訪客、移動に際し様々な制約・困難を抱えている人たちに対する配慮であるならばいざ知らず、職場で日々顔を合わせている者の中で、どうしてこういう「配慮」合戦が展開されるのだろうか？

そんな話をしていたら、何のことはない、「採用間もない頃に、そういった順序を守るよう、当時の上司に言われた」という人がいることがわかった。封建領主の発想か？それよりも遙か昔、人類の歴史が始まった頃のプリミティブな感情がそうさせるのか？などと考えていたが、どうやら平成の出来事だったようだ。

現在所属している部署では、私に関しては「エレベーターのボタン押し」は控えてほしいと皆にお願いした。ボタンに向かって駆けて行き、乗ってからも必死でボタンを操作し、降りる順番を考えるのではなく、「おはよう」や「お疲れさま」に始まり、「昨日の晩ご飯」や「通勤途中でのちょっとした気づき」のような、些細なやり取りが交わされる環境の方が個人的にはうれしい。

調査という営みを通じて国会の活動に貢献し、それによって究極的には幸せの総量を増やしていくというのが、私たちの仕事なのではないか。それは、個人的な栄達や承認欲求などとは遠いところに位置する、地味だけど、より良い社会をつくるための大切なものだ。そこには、内向きの「配慮」に注ぐ余分なエネルギーなどないはずだ。

もう一つ。誤解を恐れずに言ってみると、米国西海岸辺りの名だたるテック企業では「エレベーターのボタン押し」って評価されているのだろうか。機会があったら、聞いてみたいものだ。

(本誌企画委員長 (国土交通委員会調査室) )

●**編集後記**● 今号の特集「注目トピックス」には、各調査員が日頃から注目している様々なテーマが掲載されています。連載「担い手」や特集外の特稿も含め、今号が、読者の皆さまにとって新たな気づきや発見につながるものとなれば幸いです。〔筈〕

**次号予告** (令和7年2月3日)

**特集 予算・税制／決算**

- 本誌の掲載論文等の意見にわたる部分は執筆者個人の見解です。
- 本誌の掲載論文等を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください。
- 本誌の掲載論文等は、参議院ホームページ<[www.sangiin.go.jp](http://www.sangiin.go.jp)> 及びイントラネットの「立法調査情報」でもご覧いただけます。
- 本誌のバックナンバーは、右記QRコードからご参照ください。



**立法と調査 No.471**

令和6年12月10日 発行

**編集・発行** 参議院事務局企画調整室

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-16  
参議院第二別館内

TEL 03-3581-3111 (内線75020)  
03-5521-7686 (直通)